

世間解

第三八九号

令和二年七月

発行 西法寺

念仏もうさるべし

―学仏大悲心（仏の大悲心を学ぶ）―

七月であります。心落ちつかない日が続きますが、皆さまには「本願のおはた
らきの中」「なんまんだぶ、なんまんだぶ…」とお念仏さまに包まれての日暮らし
をお送りのことと存じます。

“阿弥陀さまの本願力”というのを毎回のようにお聞かせをいただきます。
親鸞聖人のお味わいは、ただ阿弥陀さまが本願力を持っておられる、言いかえれ
ば“阿弥陀さまの本願力”ということではなく、“阿弥陀さまが本願力である”
というお味わいなのであります。阿弥陀さまのお徳の一部を本願力として私に
届けてくださるのではなく、阿弥陀さま全体がそのお徳の全てが本願力となって
私に届いてくださっておるといふことでもあります。その本願力が私を念仏の
衆生に、お念仏申すものに育てあげてくださっておるのであります。そういう
阿弥陀さまのおはたらきを私たちにお取り次ぎくださった梯實圓和尚の
七回忌の今年、改めて和上のご法話をお聞かせいただくのであります。
和上がご往生になられる前の年、平成二十五年十月十四日の西法寺・報恩講さ
までのご法話です。

くり返し、くり返し、お聞きくださいませ。

『…「なんまんだぶ、なんまんだぶ」とお念仏を称える。そして、聞こえてくる
お念仏、聞こえてくる声、へなんまんだぶつ」と聞こえてくださる“声について
決定往生の思いをなせ”。

“大丈夫だぞ”とおっしゃってくださいるんだから、おお、大丈夫だ、大丈夫だ、
と聞いて慶ぶんだ。それを“信心”というんだ。

ですからね、信心と念仏、念仏と信心というのは一つなんですよ。

親鸞聖人はね、「お念仏は称えものだと思ふな。お念仏は聞きもんだと思え。

一声一声、聞こえてくださっている仏さまの声なんだ」とおっしゃるんです。
ここをハッキリと味おうとってほしいと思うんです。

お念仏を自分の称える仕事やと思てるからね、仏さまに遇えないんだ。

念仏称えながら誰に会うてるかいうたら、自分に会うてる。自分の声にあい、
自分が功德積んでると思ってるでしょ。一声称えるより十声称えた方が、十声
称えるより百声称えた方が、それより一万遍称えた方が大分功德があると思つて
るでしょ。それは自分のやったことや。自分の功德を見るから仏さまに遇えな
いんだ。仏さまをちつとも見てない。お念仏は如来さまの功德です。

功德というのは勝れたはたらきということ、如来さまの勝れたはたらきが、へな
んまんだぶつ」という言葉になって私に聞こえてる。これが仏さまの勝れたはた
らきなんだ。だからね、念仏の功德というのは私のはたらきじゃない。如来さま
のはたらきなんだ。あつ、このへなんまんだぶつは如来さまのはたらきなんだ
な、と氣いついた人は、そこで仏さまに出遇ってるわけや。
如来さまに出遇うちゅうのは、なんですよ、お念仏が仏さまの声だ、
お経が仏さまの言葉だ、と聞いた人は何時でも仏さまに遇うてる。

仏さまに死んでから会うのと違う。生きてる間に遇わなきゃ、救われはしません
わい。生きてる間に遇えない人間が、死んでから会えるかあ？
生きてる間にしっかりと遇うんだ。遇うちゅうたつて、向こうから遇いに来ては
るんだ。向こうから喚びかけ、向こうから遇いに来てなされる。それが「なんまんだ
ぶ、なんまんだぶ、なんまんだぶ…」と聞こえる。

だから、どんな思いで称えてるか、どんな心で称えてるかそんな事考えんでよろ
しい。それよりも「なんまんだぶつ」と称えれば「声につきて決定往生の思いを
なすべし」親鸞聖人はね、念仏は「本願招喚の勅命」だとおっしゃる。招はま
ねく。喚はよび覚ます。念仏は如来さまが私を招き喚び覚ましてくださるお
言葉だ。

「なんまんだぶつ」でどういふことですか？と聞いたら「必ず救るぞ」というて
くださっている阿弥陀さまのお言葉だと聞かせていただくんです。…』